

第4学年国語科学習指導案

児童 4年1組 男19名 女20名 計39名
指導者 紀 瑞子

一人一人の感じ方の違いに気付かせるために対話を生かす指導の在り方

1 単元名 学習したことを生かして (学習材名「ごんぎつね」物語文(光村4年下))

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、これまでに、物語文の学習において言葉や表現に気を付けて読み、作品の特色をとらえて紹介カードを作ったり、題名や作品のかぎになる言葉に着目し、作品全体とのかかわりを考えたりする学習をしてきた。その結果、登場人物や場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気を付けて想像しながら読んだり、題名にこめられた作者の思いについて自分なりの考えをもったりすることができるようになってきている。しかし、書かれている内容について「おもしろい」「楽しい」「悲しい」といった感想にとどまり、作者が特別な意味をこめている言葉に着目し、そこから考えを深めるには至っていない児童も見られる。

説明文「アップとルーズで伝える」では、「対話」を活用して筆者の述べ方の工夫について学び合う学習をした。友達の考えを自分と比べながら聞き合うことで、文末表現や接続語などの言葉の使い方、対比的な説明の仕方などが、筆者が意図的に用いた表現であり、伝えるための工夫でもあることに気付くことができた。

これらのことから、文章を読んで抱いた自分の考えや感想を高めるとともに、まとめたことを聞き合っ一人一人の感じ方の違いに気付かせ、学び合わせる事が大切であると考え。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元は、児童が自らの力で教材と向き合い、今まで学んできたことを生かして、楽しみながら自分なりに学習することを目指して設定された総合単元である。ここでは、主たる指導事項として「読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を位置付ける。この力を培うためには、「自分の考えがどの叙述にもとづいているか、根拠を明確にする力」「読みのめあてに応じて大事なことや読み落としてはならない言葉に注意して読む力」を育てていく必要がある。本単元では、児童一人一人が何度も文章を読み返したり、考えをノートに書き込んだりといった主体的な姿勢で読むことができるように、学習活動を支援していくことが指導の中心となる。その力が、児童の主体的な学習活動の選択や計画立案につながっていくと考える。

このような力を育てるために、学習材として「ごんぎつね」を用いる。「ごんぎつね」は、ひとりぼっちの小ぎつね「ごん」と兵十との心の交流を、美しい情景描写を背景に描いた物語文である。児童の主体的な取り組みを保障するためには、児童の心を直接的につかみ得る教材でなくてはならない。心の交流の美しさと悲しさを描いた「ごんぎつね」は、味わい深い挿絵とあいまって児童の感受性に強く訴え、夢中になって読むことのできる魅力に富んだ作品である。

この学習材を通して、児童は、心の交流への切ない願いやそれが果たされない悲しみ、互いに理解し合えた喜びについて思いを深めることができるであろう。また、自分がなぜそう思うようになったのか考え、理由を明らかにすることにも意欲をもち、お互いの考えを聞き合い、一人一人の感じ方の違いに気付くことができるであろう。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、これまでの活動をふり返らせながら、まとめる段階でどのような方法で発表したか、自分のめあてを考えさせる。また、「ごんぎつね」をどういう物語ととらえるか自分の考えを明確にするために、紹介文を書くことを知らせる。いくつかのモデルを提示して紹介文に必要な内容を話し合い、自分だったらどんなことを紹介したいか考えながら読み進める姿勢につなげたい。

ふかめる段階では、叙述を味わいながら、場面ごとに登場人物の気持ちの変化を読み取らせる。単位時間ごとの終末では「この場面では何を紹介したいか」書きまとめ、次時の導入でそのよさを全体に広げるようにする。そして、全場面を読み通した後「ごんぎつね」の紹介文を書き、お互いに聞き合う場を設定する。

まとめる段階では、読み取ったことを踏まえて自分のめあてと学習活動を見直し、確定させて取り組ませる。児童一人一人の意欲を大事にしながらか態に応じた支援をし、発表会へと導くようにしたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

・自分で学習課題を決めて計画を立て、学習方法を工夫して活動に取り組もうとする。

(2) 読むこと

・文章を読んで考えた事を発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付き、自分なりに感想を深めることができる。

(3) 言語についての知識・理解・技能

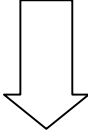
・表現したり理解したりするために必要な語句を増すことができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①自分で学習課題を決めて計画を立て、学習方法を工夫して活動に取り組もうとしている。	①文章の要点や細かい点に注意しながら読んでいる。 ②一人一人の感じ方の違いに気付き、自分の考えを見直している。	①表現したり理解したりするために必要な語句の量と使える範囲を広げている。

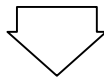
5 学習指導計画（20時間扱い）

【関連する前の単元】
 「本と友達になろう」
 ○言葉や表現に気を付けて読む。
 「場面をくらべて読もう」
 ○題名や作品のかぎとなる言葉に注目して読む。



【関連する対話の指導】
 ○話の中心に気を付けて聞くこと。
 ○相手と自分の考えを比べながら聞き、感想をもつこと。

段階	学習課題	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○自分のめあてをもち学習計画を立てよう。	・これまでの活動をふり返り、どのような学習をしたか考える。(1) ・モデルをもとにして紹介文に必要な内容を話し合う。(1)	アー① 自分で学習課題を決め進んで取り組もうとしている。(ノート)
ふかめる	○会話文や心内語、行動などから、ごんや兵十の気持ちを読み取ろう。	・叙述を味わいながら、場面ごとに登場人物の気持ちの変化を読み取る。 ・場面ごとに紹介文を書き、よさを学び合う。(7)	イー① 登場人物の気持ちの変化や情景とのかかわりを考えて読んでいる。(ノート・発言) ウー① 語句の意味を確かめながら適切に読んでいる。(ノート)
	○「ごんぎつね」の紹介文を書こう。 ○紹介文を聞き合っ「ごんぎつね」に対する考えを深めよう。	・物語文「ごんぎつね」に対する考えを明らかにしながら紹介したい内容を決め、紹介文を書く。(1) ・紹介文を聞き合い、自分の紹介文との違いを明らかにしながら「ごんぎつね」という物語について考える。(1) 本時	イー① 言葉や文を引用したり要約したりして紹介文を書いている。(紹介文) イー② 一人一人の感じ方の違いに気付き、自分の考えを確かめている。(学習シート)
まとめる	○自分の計画にしたがって、自分の力で取り組もう。	・読み取ったことを踏まえて自分のめあてと学習活動を見直し、計画を確定する。(1) ・計画に従って、自分で活動を進める。(6) ・「ごんぎつね」発表会を開く。(2)	アー① 自分のめあてに向かい、計画に従って進んで取り組んでいる。(ノート・活動の様子) ウー① 必要な語句を用い、適切に使っている。(ノート・活動の様子)



【生かす単元】「本に親しみ、人間を見つめよう」
 ○文章を読んで考えた事を発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

6 本時の指導

(1) ねらい

対話を通して、「ごんぎつね」を読んで一人一人が考えたことに違いがあることに気づき、自分の考えを深めることができる。

(2) 展開

段階	学習活動 (○主発問)	時間 (分)	学習内容	教師のかかわり ☆評価 (方法)
みとおす	1 本時の学習課題を確認する。 紹介文を聞き合って「ごんぎつね」に対する考えを深めよう。	7	◇紹介文に書いた内容と自分が紹介したかった事柄を確かめること。	・自分との相違点や共通点に気を付けて友達の記事文を聞き合うことにより、「ごんぎつね」に対する自分の考えがより深まることをおさえる。
ふかめる	2 対話活動をする。 (1) 1回目の対話をする。 ○自分の考えと比べながら、紹介文を聞き合いましょう。 (2) 2回目の対話をする。 (3) 対話をふり返る。 ○対話をして気付いたことや「ごんぎつね」という物語について新たに考えたことを書きましよう。	10 10 10	◇「ごんぎつね」の紹介文を聞き合うこと。 ・どうして～ということを紹介しようと思ったのですか。 ・「ごんぎつね」のどんなところから～と考えたのですか。 ・私は○○さんと同じで(違って)「ごんぎつね」を～という物語だと思いました。～だからそう考えました。 ・「ごんぎつね」を～と紹介する考えは、私は思いつきませんでした。 ◇対話をふり返り、自分の紹介文との違いを明らかにしながら「ごんぎつね」という物語について考えをまとめること。 ・○○さんと対話して、～について考えると「ごんぎつね」を～と紹介できることを知りました。	・相手がそのように紹介したいと考えた意図について確かめたり質問したりすることによって、叙述を基にした交流となるようにする。 ・自分の紹介した内容を見直したり、考えの根拠となった叙述とのかかわりが確かになるように、相手の言葉を受けて話すようにさせる。 ・相手を変えて対話を2回行うことで、より多くの考え方にふれられるようにする。 ・2回の対話をふり返って書くことで、自分と友達と共通点や相違点について考え、自分の考えを見直して読みを深めるようにする。 ☆一人一人の感じ方の違いに気づき、自分の考えを見直しているか。 (学習シート) [努力を要する児童への手立て] 対話の相手が書いた紹介文と自分との違いについて考えるように促す。
まとめる	3 本時の学習のまとめをする。 ○対話をふり返って考えたことを発表しましょう。	8	◇対話をふり返りながら、紹介文に書く内容の違いが、「ごんぎつね」のどういう点に着目し、どういう物語と考えたかの違いであることに気付くこと。	・対話によって一人一人の感じ方の違いに気付いたことを確かめ、次時への意欲付けをする。